

就任のご挨拶



旭硝子株式会社 取締役会議長

石津 進也

平成 16 年度の総会及び理事会におきまして、会員の皆様方のご推挙を受け、この度、(株)ニューガラスフォーラムの会長をお引き受けすることとなりました。当フォーラムの活動に尽力されて来た山中前会長はじめ、諸先輩の皆様方に感謝申し上げますと共に、今日の激動の世の中で、当フォーラムを更に発展させていくことは大変な重責であると感じております。皆様方の強力なご支援を得ながら、フォーラムが実り多きものになるために全力を尽くす所存でございます。

さて、米国経済の回復基調や中国などのアジア諸国の急成長および BRICs 諸国の成長の影響も受けて、重苦しい閉塞感の中にあった日本経済も、わずかではありますが明るい兆しも見えつつあります。しかし、経済のグローバル化や技術革新がかつてない速さで進んでおり、急激な環境変化もあって、自らの競争力を守るために引き続き構造改革を余儀なくされている面もあります。その一方で、日本の“モノ造り”の底力、技術力が中国やアジア諸国の台頭の中でも、十分競争力を発揮できることを実証してきている企業や製品が生まれてきています。

(株)ニューガラスフォーラムは、来年 7 月で 20 周年を迎えます。ニューガラスの産業の発展と関連する技術開発を推進するために、産官学が一体となってわが国のガラス産業の進化を目的として発足したものです。ガラスの本来持っている優れた性質に着目して、エレクトロニクスやオプトエレクトロニクスの関連分野で、先端技術を駆使した新しい機能を持ったガラスの開発に大きな役割を果たしてきました。また、ガラス産業連合会 (GIC) の発足に伴って、「ガラス産業技術戦略 2025 年」の策定に寄与するなど、既存の産業も含めたガラスの基盤技術の研究開発にも貢献してまいりました。現在、21 世紀をリードする新技術としてナノテクノロジーが注目されています。わが国の国際競争力を強める上で鍵を握る技術ですが、産官学が一体となって、文字通り垣根を越えた取り組みが求められており、当フォーラムはその中核を担うものとして期待されています。

以上のような背景の中で、当面、以下を重点課題として進めてまいりたいと考えており

ます。

第1は、ナノガラスの技術の具体的な成果を更に発展させることです。現在、ナノガラス技術プロジェクト（平成13年度～平成17年度）およびフォーカス21ナノガラスプロジェクト（平成15年度～平成17年度）の二つのナショプロが進行中です。すでに、機能性ナノガラスの分野で顕著な成果が生まれてきております。ナノガラスの技術には、他の材料にはないガラスの特徴が画期的に活かされる可能性を秘めております。わが国のガラス産業にとって、世界をリードする新製品が開拓できると確信しております。

第2は、ガラスデータベース「INTERGLAD」の充実化です。現在、組成累計数約25万件、物性データ約70万件に上り、国内73機関、海外16機関で活用されています。データの精度を高めると共にソフトウェアをより使いやすく改良し、新バージョン（Ver. 6）として発行の予定です。

第3は、20周年記念事業についてです。前述しましたが、2005年7月に当フォーラムは20周年を迎えます。会員各位のご意見も頂きながら、ひとつの節目として有意義な記念事業を実施したいと考えております。

時代の要請は大変厳しいものがございますが、会員各位、諸先輩、大学・研究機関の諸先生、経済産業省の関係各位のご指導とご協力を仰ぎながら、責務を果たしていく所存でございます。なにとぞ宜しくご支援を賜りますようお願い申し上げます。